

10. 肺癌における Ga シンチグラムと気管支動脈像との比較検討

○西川 博 山岸 嘉彦
 椎葉 忍 本多 一義
 鈴木 次夫 中沢 英治
 中沢 広重 志田 幸雄
 疋田 史典 沢野 誠志
 細井 盛一 奥山 厚
 (日本医大・放)

原発性肺癌患者30例での ^{67}Ga -citrate のシンチグラムと気管支動脈像とを比較検討した。対象は腫瘍径が 2 cm より大きく、組織型が確定しているものに限定した。扁平上皮癌15例、腺癌7例、未分化癌8例である。 ^{67}Ga -citrate の集積範囲と血管撮影像における腫瘍血管の範囲についての検討では、4例を除いてほぼ相関が認められた。次に腫瘍血管の vascularity と ^{67}Ga -citrate の集積程度との関係につき検討した。組織型のいかに問わず、vascularity の高い例では ^{67}Ga -citrate の集積も強く相関があると思われた。組織別に見ると、扁平上皮癌は vascularity, ^{67}Ga -citrate の集積共に高度な例が多く、これに比し腺癌では両者共にやや低い傾向が認められた。未分化癌では、高度な例から軽度な例まで種々認められた。最後に肋間動脈分岐直後の気管支動脈の内径と ^{67}Ga -citrate の集積の程度について検討したが、両者の間には相関は認められなかった。

11. 慢性炎症性肺疾患、肺結核症例の ^{67}Ga -citrate イメージングの臨床的評価 (I)

戸張 千年 黒沢 洋
 (東邦大・放)
 野口 雅裕 黒田 裕子
 古川 博 大塚 幸雄
 (同・1内)

^{67}Ga -citrate は主に悪性腫瘍の診断に用いられている。一方 ^{67}Ga は炎症性病巣にもとり込まれその評価ができることも知られている。

今回われわれは肺結核症13例に ^{67}Ga -citrate スキャンを応用し若干の知見を得たので報告した。スキャンには diversing collimeter を装着した γ -camera を用いエネルギーを 190 KeV に合わせ 200 K を集めた。その結果、胸部 X-p の所見に一致した集積が認められた。その集積の度合いは改善に従って集積が減少した悪化に従って増加することが認められた。caverne はわずかな集積が認められたが tuberculoma には集積は認められなかった。胸部 X-p にて活動性の判定のむずかしい例(肋膜肥厚を中心とした胼胝性変化)にも有効であった。加えて従来からの肺結核症に対する parameter の臨床症状、各種臨床検査所見および胸部 X-p の所見と非常に高い相関を有していた。従って炎症性疾患の肺結核症に対する ^{67}Ga スキャンは 1) 病巣の広がり、位置および活動性の評価、2) 増悪および治療効果の評価、3) 胸部 X-p でかくれた病巣の発見に対して有用性がある。

12. 肺吸入シンチグラフィの初期経験

杉原 政美 鈴木 豊
 池井 勝美 山崎 秀夫
 池田佳代子 長山鎮治郎
 (東海大・放)
 高崎 雄司
 (同・内)

肺血栓症の診断は、我国では少ないとされるものの、他の諸検査が特異性を欠くため、核医学的方法の有用性は論をまたない。血流情報にて異常を認める場合、あらゆる局所的低換気をもたらす気道系病変を否定する必要がある。

この際、必要となるのは、例え定性的であろうと、患者の協力を要せぬこと、多方向より撮像可能なこと、気道系病変検出能の高いことがあげられよう。この意味で、ラジオエアロゾルスキャンは簡便かつ十分に、臨床に役立つ。そこで、われわれの経験を通して、技術的な面を中心に報告した。